

北海道大学

多職種連携による死因究明等の推進と総合的人材育成プロジェクト

「令和7年度年次報告集」

令和8年3月

北海道大学大学院医学研究院

死因究明教育研究センター

目次

I	センター長のあいさつ	・・・・・・・・ p 1
II	死因究明教育研究センターの業績概要	・・・・・・・・ p 3
III	死因究明教育研究センター教育研究概要と実績	・・・・・・・・ p 9
IV	令和6年度 各部門別実務実績・研究業績	・・・・・・・・ p 12
	法医学・中毒学部門	・・・・・・・・ p 13
	病理学・医療安全管理部門	・・・・・・・・ p 17
	オートプシー・イメージング部門	・・・・・・・・ p 34
	法歯学部門	・・・・・・・・ p 42
V	参考資料	・・・・・・・・ p 50

Center for Cause of Death Investigation Projects

令和7年度

死因究明教育研究センター事業報告

I. センター長のあいさつ

全国の死亡者数は年々増加し、現在は年間約 150 万人、異状死は年間約 20 万件に達しております。年間死者数は 2030 年までに 30 万人増加するとの報告があり、死因究明に求められる期待は大きくなっております。しかし、我が国の死因究明制度は諸外国に比べ十分なものとは言い難い状況にあり、事故や犯罪の見逃し防止の観点からも死因究明体制の強化が強く求められております。

平成 24 年 6 月に「死因究明等の推進に関する法律」が議員立法により制定され、増加する異状死の死因究明や大規模災害の発生に伴う死亡者の死因究明と身元確認の重要性が認識されました。薬物及び毒物に係る検査あるいは死後画像診断その他死因究明の科学的な調査の活用は重点施策として計画され、平成 26 年 6 月に「死因究明等推進計画」が閣議決定されました。この計画によって死因究明等が重要な公益性を有するものとして位置付けられ、死因究明等に係る実施体制の強化と死因究明等に係る人材の育成及び資質の向上にむけた取り組みが実施されました。さらには、令和元年 6 月に死因究明等推進基本法（令和 2 年 4 月 1 日施行）が成立し、死因究明等（死因究明及び身元確認）に関する施策を総合的かつ計画的に推進することとなりました。具体的には、1）死因究明により得られた知見が公衆衛生の向上及び増進に資する情報として広く活用される、2）災害、事故、犯罪、虐待等が発生した場合における死因究明がその被害の拡大及び再発の防止等の実施に寄与するよう、国・地方公共団体・大学・医療機関・関係各機関と相互に連携を図り協力しながら実施することが求められました。

このような状況を踏まえて、本研究院では平成 28 年 4 月に死因究明教育研究センター Center for Cause of Death Investigation を設置しました。令和 3 年 5 月からは、法医学/中毒学部門・病理学/医療安全管理部門・オートプシーイメージング部門・法歯学部門に再編し、死因究明・医療安全・身元確認等に係る教育・研究拠点として活動を展開しております。そこでは、学内他学部はもとより、北海道大学病院、全国医療機関、道内外の大学、北海道警察、北海道保健福祉部、科学捜査研究所、北海道医師会、北海道歯科医師会、地域基幹病院、海上保安庁など学内外の多職種と積極的に連携し、死因究明等の推進と総合的人材の育成に当たっております。

皆さまには本センターの活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

死因究明教育研究センター センター長 田中 伸哉

Ⅱ. 死因究明教育研究センターの事業概要

組織

死因究明教育研究センター運営委員会

医学研究院

腫瘍病理学教室

法医学教室

統合病理学教室

画像診断学教室

呼吸器内科学教室

心臓血管外科学教室

歯学研究院口腔機能学分野 口腔顎顔面外科学教室

北海道大学病院 医療安全管理部

小児科学教室

...

死因究明教育研究センター教員（兼務を含む）

法医学・中毒学部門

病理学・医療安全管理部門

オートプシー・イメージング部門

法歯学部門

田中伸哉（センター長）

的場光太郎（副センター長）

谷口浩二

工藤與亮

今野 哲

若狭 哲

大廣洋一

藤原 晶

真部 淳

的場光太郎

神 繁樹

木内隆之

南須原康行

田中 敏

根岸 淳

武田充人

堀田記世彦

藤原 晶

佐々木理

工藤與亮

坂本圭太

原田太以佑

池辺洋平

八若保孝

箕輪和行

竹内明子

事業概要

- I. 死因究明教育研究センターを設置し、複数の部局が連携して学部・大学院教育の充実化を図り、死因究明、身元確認等に係る適切な判断・対応を担う人材の育成を行う。
- II. 教育プログラムや奨学金を活用した教育を行うことで、将来的に法医学・病理学専門家となりうる人材を育成する。

事業の取組内容

全体計画

本事業は、北海道の中核的役割を担い、死因究明等の推進体制を強化するとともに、北海道大学が総合大学である強みを生かして幅広い分野の医療系人材に対して法医学の知識の普及・向上を実現する。さらに、医療関係領域のみならず、行政職、法曹関係者に対する法医学教育（研修会・講演会）の実施や連携体制の構築を図り、法医学的諸問題に対処する人材育成を行い、社会にイノベーションをもたらす指導的・中核的人材を輩出することを目指すことで、本学第3期中期目標期間の戦略③「国際社会の発展に寄与する指導的・中核的人材の育成」を実現する。

また近年、死因究明に対する社会からのニーズが高まり、複雑多様化する死因究明等の実務に対応する多分野のハイレベルな医療系人材の育成が求められている。さらに、医療関係領域のみならず、行政職、法曹関係者に対する法医学教育の実施や連携体制の構築を図り、法医学的諸問題に対処する人材も求められている。

これらのことから、本学では死因究明教育研究センターを設置し複数の部局が連携し、学部教育や大学院教育などの充実化を図り、死因究明を推進するため、法医解剖や病理解剖、死後画像診断、薬毒物検査、歯科所見による身元確認等を担う人材を育成し、将来の死因究明にかかる専門家の育成につなげる。また、学内の連携に加えて、学外の専門家や北海道保健福祉部、北海道医師会、北海道歯科医師会、地域基幹病院、北海道警察・科学捜査研究所、第一管区海上保安本部、検察庁等学外の関係機関と北海道死因究明推進協議会などにおいて積極的に連携を図る。さらに、死後画像診断を活用した課題研究やディスカッションを取り入れた、アクティブ・ラーニング授業科目なども提供するなど、国際社会において死因究明の発展に寄与する指導的・中核的人材を育成してゆく。

事業計画（令和7年度）

- (1) 異状死の死因究明に係る法医解剖の実施
- (2) 死後画像診断を利用した死体検案等の実施
- (3) 病院内突然死等の死因究明・医療事故調査における死後画像診断，法医・病理解剖の実施
- (4) 異状死や身元不明遺体に対する歯科的所見による身元確認
- (5) 死因究明・死体検案・死後画像診断・法歯学等のセミナー，研修会，講演会の開催
- (6) 教育プログラム等の実施による死因究明等を担う人材育成
- (7) 各研究科等で得られた法医学のデータを集積しデータベースの構築
- (8) アクティブ・ラーニング授業科目の実施
- (9) 薬毒物鑑定の実施

全体概要

【特記される取り組みおよびその成果・効果】

- 平成28年4月に既設のオートプシー・イメージングセンターを発展的に改組し、その機能を維持かつ融合しつつ、死因究明等に関する教育プログラム等を開発・実施している。平成30年度は法医学部門・臨床法医学部門に大学院生3名，United Arab Emirates 大学から特別聴講学生が1名（研究期間2週間），海上保安庁研修生1名（研修期間6カ月），病理学部門に大学院生2名（計5名），オートプシー・イメージング部門に大学院生3名が研究を開始し、医療関係者以外の学生，社会人を対象として法医学の知識向上を図っている。平成31年度（令和元年度）は法医学部門・臨床法医学部門に大学院生1名，Otago Christchurch 大学から特別聴講学生1名（研究期間4週間），海上保安庁研修生1名（研修期間6カ月）が研究実務に携わった。令和2年度は海上保安庁研修生1名（研修期間6カ月），令和3年度は法医学・中毒学部門に大学院生2名，海上保安庁研修生1名（研修期間6カ月），令和4年度は法医学・中毒学部門に大学院生2名，海上保安庁研修生2名（研修期間6カ月），令和5年度は海上保安庁研修生1名（研修期間6カ月），令和6年度は病理学・医療安全管理部門に大学院生4名，令和7年度は病理学・医療安全管理部門に大学院生4名，法医学・中毒学部門に大学院生1名，海上保安庁研修生2名（研修期間6カ月），海上保安庁研修生10名（短期間）が研究実務に携わった。
なお、本センターは、法医学・中毒学部門，病理学部門・医療安全管理部門，オートプシー・イメージング部門，法歯学部門の計4部門で構成され、各部門に教員（専任4名，兼任13名）を配置し事業を推進している。
- 死因究明に係る現状認識の深化に資する講義および本学における取組およびその成果を発表するため、医学部生，大学院生，警察医，警察職員，児童相談所職員他を対象とした講演会を5回（10月，11月，12月）開催した。

- オートプシー・イメージング部門が中心となり，医療安全管理部門が協力し，学外医療機関からの死亡時画像診断の読影業務を平成 30 年 2 月 1 日から正式に開始した。
- 薬物検査の研究成果を活用し，新たに微量分析装置（GC-MS/MS および LC-MS/MS）の整備を行い，医療機関および医療機関外の死亡事例に対し，薬物分析を実施することにより，薬物中毒の見逃し防止などの成果を上げている。
- オートプシー・イメージング部門では専用画像解析用ワークステーションを配備し，従来から行われている診断に加え，計測等による客観的指標の提示が可能となった。又，画像アーカイブズによる画像データベースが作成可能であり，人材育成に活用を開始している。
- 病理学部門ではバーチャルスライドの活用を通じて画像アーカイブズを作成し，専門家として指導を行うとともに学習教材並びに継続的な教育資材として活用している。

部門概要

法医学・中毒学部門

法医学・中毒学部門は、事業計画の(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)を担当する。実務としての院外死亡例に対する死体検案並びに解剖検査(司法解剖・承諾解剖・調査法解剖)・死後画像診断・薬毒物検査等を担当し、将来の死因究明に係る専門家の育成につながる、研究・教育システムの開発とそれの実施を行う。また、センター内の他部門と連携し、院内死亡に対する死因究明への取り組みに参加するとともに、北海道大学病院医療安全管理部との連携を図り、新たな医療安全システムの確立に向けた取り組みを推進する。病院医師研修のためのトレーニングプログラム(CAST)にも参加し、臨床医の研修、研究をサポートしている。

病理学・医療安全管理部門

病理学部門は、事業計画の(2)(3)(5)(6)(8)を担当する。実務としての院内死亡例に対する病理解剖を実施し、患者さんの検体、標本、症例に向き合い、病理学の専門的な見地から病理診断を担当し、病理学で得られた成果を臨床の現場に伝え、実際の治療や将来の死因究明に役立てる知見を明らかにしていく。また、臨床研修医や担当医師に対して教育型CPC(clinico-pathological conference)を実施し、病理学を通じて死亡に至った原因を明らかにし、実験病理学と人体病理学を統合する人材育成に取り組む。

医療安全管理部門は、事業計画の(3)(5)(6)(8)を担当する。実務として医療安全に係る各種委員会並びに会議の運営を行う。その活動は、北海道大学病院にとどまらず、北海道内の各医療機関と連携し、安全な医療を提供できるよう調整を行う。特に、医療事故調査制度の対象となる死亡事例が発生した場合には、疑い段階における対象事例か否かの相談に対する助言、死亡時画像診断や解剖の実施の援助、外部調査委員の推薦(部門員自らが調査委員になることも多い)を行い、医療事故の原因究明並びに再発防止および医療の質の向上に向けた支援を行う。また、法医学部門・病理学部門・オートプシー・イメージング部門と協力し、院内死亡事例に対する死亡時画像診断・解剖の実施指示、結果の集積並びに解析を行っている。患者家族や医療機関への説明を通じて、医療を受ける側並びに提供する側、双方の納得が得られる取り組みを担当する。

オートプシー・イメージング部門

オートプシー・イメージング部門は、事業計画の(3)(5)(6)(7)(8)を担当する。実務として学内外医療機関の院内死亡に対する死亡時画像診断を実施し、読影を含めて幅広く死因究明の意義を多くの研究医に学習させる機会を提供し、大学院進学等を通じて死因究明を担う人材育成に向けた取り組みを実施してゆく。また、病理学部門と協力し、臨床研修医や担当医師に対して教育型CRPC(clinico-radiological-pathological

conference) を実施し、放射線診断学を通じて死亡に至った原因を明らかにし、画像所見と解剖所見から死因を総合的に判断する力を養う取り組みを担当する。

法歯学部門

法歯学部門は、事業計画の(4)(5)(6)(7)(8)を担当する。実務として、司法解剖において身元確認が必要なご遺体の法歯学的所見を記録し、警察等の身元確認業務に必要な知見を明らかにしてゆく。また、歯学部教育の中に法歯学教育を取り入れ、法歯学的知識の有用性と実用性について広く知見を広め、実務で活用できる臨床歯科医師育成への取り組みを担当する。

Ⅲ. 死因究明教育研究センター 教育研究概要と実績 事業実績

- (1) 異状死の死因究明に係る法医解剖の実施
- (2) 死後画像診断を利用した死体検案等の実施
- (3) 病院内突然死等の死因究明・医療事故調査における死後画像診断，法医・病理解剖の実施
- (4) 異状死や身元不明遺体に対する歯科的所見による身元確認
- (5) 死因究明・死体検案・死後画像診断・法歯学等のセミナー，研修会，講演会の開催
- (6) 教育プログラム等の実施による死因究明等を担う人材育成
- (7) 各研究科等で得られた法医学のデータを集積しデータベースの構築
- (8) アクティブ・ラーニング授業科目の実施
- (9) 薬毒物鑑定の実施

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
(1) 件	378	389	385	463	481
(2) 件	1137	1370	1306	1445	1489
(3) 件	30	34	51	38	46
(4) 件	47	90	164	180	181
(5) 回	3	6	4	5	5
(6) 名	19	19	20	6	8
(7) 件	10	10	10	10	10
(8) 件	4	4	4	5	6
(9) 件	619	580	532	580	652

開催教育セミナー・講演会・講習会

<全部門共通>

- ・第34回 死因究明教育研究センターセミナー
2025年10月3日（金）18:00-19:00
演題：死後CTで「死」を診るーこれまでと現在, 今後
講演者：石田尚利 先生
御所属・職：東京医科大学放射線医学分野・准教授
座長：工藤與亮先生（北海道大学医学研究院画像診断学教室・教授, 死因究明教育研究センター）
会場：北海道大学医学部百年記念館大会議室 およびWeb（Zoom）配信〔ハイブリット開催〕

- ・第35回 死因究明教育研究センターセミナー
2025年10月31日（金）18:00-19:00
演題：北海道CDRにおける窒息・溺水による死亡例の検証結果と予防策
講演者：佐々木 理 先生
御所属・職：社会医療法人母恋 天使病院・小児科科長
座長：武田充人先生（北海道大学大学院医学研究院小児科学教室・准教授, 死因究明教育研究センター）
会場：WEB（Zoom）による開催

- ・第36回 死因究明教育研究センターセミナー
2025年11月7日（金）18:00-19:00
演題：死因究明のための各種検査の実施と薬毒物検査の現状ー本学の取組みについてー
講演者：葛城梨江香 先生
御所属・職：新潟大学大学院医歯学総合研究科法医学分野・助教
会場：Web（Zoom）によるオンライン開催

- ・第37回 死因究明教育研究センターセミナー
2025年11月25日（火）18:00-19:00
演題：医療事故調査制度10年の総括ー医療の安全確保に向けた歩みー
講演者：宮田 哲郎 氏
御所属・職：一般社団法人日本医療安全調査機構 常務理事
座長：南須原 康行先生（北海道大学病院長・医療安全管理部 教授）
会場：Zoomによるオンライン開催

・第38回 死因究明教育研究センターセミナー

演題：災害時の最悪の事態に備えることによる減災

講演者：熊谷 章子 先生

御所属・職：岩手医科大学法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 教授

座長：八若保孝先生（北海道大学小児・障害者歯科学教室・教授, 死因究明教育研究センター）

会場：歯学部講堂（北海道大学歯学部B棟2階）

・「死因究明学」履修状況（令和7年度）

履修者総数		38名
大学院共通授業科目「死因究明学」		25名
内訳	保健科学院	3名
	医学院	1名
	理科系院	15名
	（理, 工, 総化, 農, 生）	
	文化系院	6名
	（教, 法, 公共）	
大学院医学院基本医学総論「死因究明学」		2名
大学院医学院医学総論「死因究明学」		11名

令和7年度

死因究明教育研究センター実務実績・研究業績

法医学・中毒学部門

実務実績（令和7年1月1日～令和7年12月31日）

法医解剖	481件
司法解剖	458件
調査法解剖	19件
承諾解剖	4件
死体検案（CT検査実施）	1489件
司法検視に伴うCT検査	679件
行政検視に伴うCT検査	810件
学内のCAST（キャダバーサージカルトレーニング） におけるトレーニング前CT検査	17件
刑事裁判証人出廷（鑑定人証言）	6件
海上保安庁研修生	2名

研究業績（2025.1－2025.12）

英文原著論文

- 1) Yokozeki K, Kameda H, Miya A, Jin S, Matoba K, Nakamura A, Atsumi T: Blood steroid hormone profile and clinical outcomes following switching from metyrapone to osilodrostat in patients with Cushing disease. *Endocr J.* 2025;72:1309-1316.
- 2) Hagita T, Takeuchi A, Shimbashi S, Hyodoh H, Matoba K, Matoba T, Kiuchi T, Jin S: Usefulness of computed tomography-guided postmortem biopsy to evaluate pneumonia. *Forensic Sci Int.* 2025;377:112612.
- 3) Yamada K, Suzuki M, Miyaji K, Sase K, Ebina K, Tsujita T, Chen X, Komizunai S, Senoo T, Nakazono A, Watanabe R, Kimura S, Suzuki T, Nakamaru Y, Matoba K, Hinder D, Zhang A, Psaltis AJ, Wormald PJ, Konno A, Homma A: Objective evaluation for Endoscopic Sinus Surgeries' proficiency by image analysis for postoperative 3D sinus models. *Auris Nasus Larynx.* 2025;52:567-574.

- 4) Jin S, Takeuchi A, Murakami M: Enhancing financial literacy: Integrating education into the formal curriculum as a key solution. *Flor Night J Nurs.* 2025;33:0034.

和文症例報告

- 1) 木内隆之, 神 繁樹, 的場智子, 竹内明子, 的場光太郎. 解剖中に造影造影 CT を用いることにより致死性の出血部位を同定し得た一剖検例. *法医学の実際と研究* 2025 ; 68 : 29-33.

国際学会発表

- 1) Takeuchi A, Kiuchi T, Matoba T, Jin S, Matoba K: A case in which postmortem 3DCT fracture assessment was useful for fall location estimation. 14th Congress of International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, 2025. 5. 15-17.
- 2) Jin S, Eguchi A, Takeuchi A, Matoba T, Kiuchi T, Matoba K: A case of a mummified corpse suspected of drug poisoning on postmortem imaging. 14th Congress of International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, 2025. 5. 15-17.
- 3) Matoba K, Hara Y, Takeuchi A, Kiuchi T, Matoba T, Jin S: A case in which neck retroversion at postmortem CT imaging was useful in detecting cervical spine injury. 14th Congress of International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, 2025. 5. 15-17.
- 4) Kiuchi T, Takeuchi A, Matoba T, Jin S, Matoba K: A case of identifying the site of fatal bleeding using contrast-enhanced CT during autopsy. 14th Congress of International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, 2025. 5. 15-17.

国内学会発表

(一般演題)

- 1) 木内隆之, 竹内明子, 神 繁樹, 的場光太郎: 法医診断における NT-proBNP 検査の有効性についての検討 (第 2 報). 第 109 次日本法医学会学術全国集会, 久留米シティプラザ (久留米市), 2025. 6.

- 2) 的場光太郎, 江口亜矢子, 神 繁樹, 竹内明子, 木内隆之: ハエの蛆を用いた薬物検査の有用性への検討. 第 109 次日本法医学会学術全国集会, 久留米シティプラザ (久留米市), 2025. 6.
- 3) 神 繁樹, 的場光太郎, 木内隆之, 竹内明子: 青酸カリ摂取による 2 名の自殺事例におけるシアン化水素の測定. 第 109 次日本法医学会学術全国集会, 久留米シティプラザ (久留米市), 2025. 6.
- 4) 竹内明子, 神 繁樹, 木内隆之, 的場光太郎: 死後 CT 画像の胸腺計測による小児虐待スクリーニングの有用性. 第 109 次日本法医学会学術全国集会, 久留米シティプラザ (久留米市), 2025. 6.
- 5) 澤田みなみ, 山地穂花, 神 繁樹, 的場光太郎, 魚住 諒: 法医学における LC-MS/MS の活用ーストリキニーネ中毒による死亡事例検体の分析ー. 第 37 回日本質量分析学会北海道談話会&第 9 回東北談話会, 北海道大学北キャンパス総合研究棟 7 号館 1 階産学コミュニティホール (札幌市), 2025. 7.
- 6) 山地穂花, 澤田みなみ, 神 繁樹, 的場光太郎, 魚住 諒: トリカブト含有アコニチン類の LC-MS/MS 濃度測定を目的とした前処理方法の検討. 第 37 回日本質量分析学会北海道談話会&第 9 回東北談話会, 北海道大学北キャンパス総合研究棟 7 号館 1 階産学コミュニティホール (札幌市), 2025. 7.
- 7) 吉川雄朗, 平野匡佑, 神 繁樹, 的場光太郎, 武本 浩, 今村理世, 岡部隆義, 小島宏建, 長沼史登: ヒスタミン代謝酵素を標的とした過眠症創薬研究. 第 16 回スクリーニング学研究会, タワーホール船堀 (東京都江戸川区), 2025. 11.

シンポジウム, 特別講演, 教育講演等

- 1) 神 繁樹: 法医学と One Health (教育講演). 第 8 回医薬品毒性機序研究会, 北海道大学獣医学部講堂 (札幌市, Hybrid), 2025. 12.

外部獲得資金

- 1) 的場光太郎 (分担): 文部科学省科学研究費 基盤研究 (B) (20H01654) 児童虐待に対応するための小児死後 CT の至適条件, 死後変化, 診断の標準化の検討. 2020-2025.
- 2) 的場光太郎 (代表), 神 繁樹 (分担): 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)

(22K10599) 法昆虫中毒学に基づく新たな手法による高度腐敗事例の薬毒物検査法の開発. 2022-2025.

- 3) 竹内明子 (代表), 的場光太郎 (分担), 神 繁樹 (分担) : 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (24K13384) 歯科的身元確認を支援する包括的歯科材料データベースの構築-災害時応用を目指して. 2024-2027.
- 4) 的場光太郎 (代表), 神 繁樹 (分担), 木内隆之 (分担) : 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (25K13645) 異状死体における有毒金属のスクリーニングと死因への関与の検討. 2025-2028.
- 5) 神 繁樹 (代表), 的場光太郎 (分担), 木内隆之 (分担) : 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (25K13646) ステロイド生合成プロファイル解析による新たな低温症診断への可能性. 2025-2028.

病理学・医療安全管理部門

実務実績（令和7年1月1日～令和7年12月31日）

病理解剖総数	20例
北海道大学病院症例	20例
北海道大学病院以外の症例	0例
（分子病理学教室，腫瘍病理学教室症例を含む）	
Autopsy imagingを伴う症例	19例
医療安全管理部門関与症例	1例
法医学的毒性検索	17例
（以上，重複あり）	

CPC および CRPC 開催総数	16回
（分子病理学教室，腫瘍病理学教室症例を含む）	

教育型 CPC（CRPC）開催総数	3回
令和7年10月22日	72歳 女性 結節性硬化症，LAM
令和7年11月26日	84歳 男性 間質性肺炎急性増悪
令和7年12月17日	胎生27週 女性 上顎体

医療事故調査委員会	
北海道大学病院	1件
他医療機関	15件
（内訳）調査委員長	3件
調査委員推薦など	12件

医療安全管理部門院内講演会	4回
医療安全管理会議	
リスクマネージャー連絡会議	11回
医療安全管理部門会議	11回
医療安全管理委員会	12回

研究業績 (2025.1–2025.12)

英文原著論文

- 1) Sawai S, Oda Y, Saito Y, Kuwabara T, Wang L, Tanei ZI, Hirabayashi S, Tsuda M, Gong JP, Manabe A, Tanaka S: Analysis of synthetic polymer hydrogel-based generation of leukemia stem cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025;744:151149.
- 2) Fan B, Tanikawa S, Wang L, Nonoyama T, Oda Y, Tanei ZI, Gong JP, Tsuda M, Tanaka S: Establishment of a novel method for differentiating into dopaminergic neurons using charged hydrogels. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025;747:151280.
- 3) Aoki Y, Wang L, Tsuda M, Saito Y, Kubota T, Oda Y, Hirano S, Gong JP, Tanaka S: Hydrogel PCDME creates pancreatic cancer stem cells in OXPHOS metabolic state with TXNIP elevation. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025;751:151416.
- 4) Sun Y, Nie Y, Wang L, Gong JP, Tanaka S, Tsuda M: Tumor-mimetic hydrogel stiffness regulates cancer stemness properties in H-Ras-transformed cancer model cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025;743:151163.
- 5) Shimizu H, Enda K, Koyano H, Ogawa T, Takahashi D, Tanaka S, Iwasaki N, Shimizu T: Diagnosis on Ultrasound Images for Developmental Dysplasia of the Hip with a Deep Learning-Based Model Focusing on Signal Heterogeneity in the Bone Region. *Diagnostics (Basel).* 2025 Feb 7;15(4):403.
- 6) Oshino T, Enda K, Shimizu H, Sato M, Nishida M, Kato F, Oda Y, Hosoda M, Kudo K, Iwasaki N, Tanaka S, Takahashi M: Artificial intelligence can extract important features for diagnosing axillary lymph node metastasis in early breast cancer using contrast-enhanced ultrasonography. *Sci Rep.* 2025 Feb 15;15(1):5648.
- 7) Kato-Shinomiya M, Sugino H, Wang L, Saito Y, He J, Tanei ZI, Oda Y, Tanikawa S, Tanino M, Gong JP, Tsuda M, Tanaka S: SLC13A5 plays an essential role in the energy shift to oxidative phosphorylation in cisplatin-resistant mesothelioma stem cells. *Pathol Int.* 2025 Mar;75(3):151-165.

- 8) Iriyama C, Ichikawa T, Tamura T, Takahata M, Ishio T, Ibata M, Kawai R, Iwata M, Suzuki M, Adachi H, Nao N, Suzuki H, Kawai A, Kamiyama A, Suzuki T, Hirata Y, Iida S, Katano H, Ishii Y, Tsuji T, Oda Y, Tanaka S, Okazaki N, Katayama Y, Nakagawa S, Tsukamoto T, Doi Y, Fukuhara T, Murata T, Tomita A: Clinical and molecular landscape of prolonged SARS-CoV-2 infection with resistance to remdesivir in immunocompromised patients. PNAS Nexus. 2025 Mar 18;4(4):pgaf085.
- 9) Nie Y, Mu Q, Sun Y, Ferdous Z, Wang L, Chen C, Nakajima T, Gong JP, Tanaka S, Tsuda M: Mechanochemistry-Induced Universal Hydrogel Surface Modification for Orientation and Enhanced Differentiation of Skeletal Muscle Myoblasts. ACS Appl Bio Mater. 2025 Mar 19.
- 10) He J, Tanei ZI, Wu DS, Wang L, Oda Y, Tsuda M, Tanaka S: Distinct characteristics of brain metastasis in lung adenocarcinoma: development of high-confidence cell lines. Acta Neuropathol Commun. 2025 May 21;13(1):109.
- 11) Terashima Y, Park S, Ikeuchi H, Hayashi T, Kojima S, Ueno T, Ikegami M, Kitada R, Suehara Y, Tanaka S, Suzuki K, Mano H, Takamochi K, Kohsaka S: Discovery of Novel RASGRF2 Fusions as a Therapeutic Target in Lung Adenocarcinoma of Never or Light Smokers. Cancer Sci. 2025 Oct;116(10):2868-2881.
- 12) De CK, Tsuda M, Zhu C, Dehn S, Hinrichs H, Tsuji N, Jin H, Arase H, Tanaka S, List B: The Overlooked Stereoisomers of the Ionizable Lipid ALC315. J Am Chem Soc. 2025 Aug 13;147(32):28595-28600.
- 13) Liao H, Hu S, Yang H, Wang L, Tanaka S, Takigawa I, Li W, Fan H, Gong JP: Data-driven de novo design of super-adhesive hydrogels. Nature. 2025 Aug;644(8075):89-95.
- 14) Tsujino S, Tsuda M, Nao N, Okumura K, Wang L, Oda Y, Mimura Y, Li J, Hashimoto R, Matsumura Y, Suzuki R, Suzuki S, Yoshimatsu K, Nagao M, Ito J, Takayama K, Sato K, Matsuno K, Tamura T, Tanaka S, Fukuhara T: Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan) Consortium. Evolution of BA.2.86 to JN.1 reveals

that functional changes in non-structural viral proteins are required for fitness of SARS-CoV-2. *J Virol.* 2025 Oct 23;99(10):e0090825.

- 15) Takahashi S, Nishioka K, Mori T, Yamaguchi S, Ishi Y, Kobashi K, Ito YM, Tanei ZI, Kanno-Okada H, Tanaka S, Aoyama H: Assessment of prognostic value and development of predictive model for prolonged lymphopenia in patients with glioblastoma following chemoradiotherapy. *J Radiat Res.* 2025 Sep 23;66(5):542-550.
- 16) Shinomiya Y, Ishida Y, Hatanaka KC, Yamamoto M, Nange A, Okumura A, Wada Y, Abiko M, Shimizu T, Watanabe R, Hashimoto Y, Sato Y, Sakakibara-Konishi J, Kato T, Tanaka S, Hatanaka Y: Utility of a Novel High-Sensitivity Multiplex Companion Diagnostic Test Using Formalin-Fixed Paraffin-Embedded Cell Block Materials of Non-small Cell Lung Cancer. *Cancer Med.* 2025 Jul;14(13):e71028.
- 17) Koya J, Temma T, Kawakami K, Karube F, Tanei ZI, Kawasaki M, Shimano K, Saito S, Tatsuta D, Nishino K, Natsui H, Kadosaka T, Koya T, Nakao M, Watanabe M, Kamiya K, Nagai T, Tanaka S, Fujiyama F, Anzai T: Neuropeptide Y drives ventricular arrhythmogenesis in chronic ischemic heart failure via calcium mishandling. *Heart Rhythm.* 2025 Aug 11:S1547-5271(25)02752-3.
- 18) Kaibara T, Kondo E, Matsuoka M, Iwasaki K, Onodera T, Momma D, Tanei ZI, Tanaka S, Iwasaki N: Progressive subchondral bone cyst formation following autologous chondrocyte implantation with all-suture anchors: a Case Report with histological evaluation. *BMC Musculoskelet Disord.* 2025 Feb 4;26(1):115.
- 19) Duplan E, Bernardin A, Goiran T, Leroudier N, Casimiro M, Pestell R, Tanaka S., Malleval C, Honnorat J, Idbaih A, Martin L, Castel H, Checler F, Alves da Costa C: α -synuclein expression in glioblastoma restores tumor suppressor function and rescues temozolomide drug resistance. *Cell Death Dis.* 2025 Mar 19;16(1):188.
- 20) Chen C, Fu Q, Wang L, Tanaka S, Imajo M: Establishment of a novel mouse model of colorectal cancer by orthotopic transplantation. *BMC Cancer.* 2025 Mar 6;25(1):405.

- 21) Ahmad S, Hashim PK, Imajo M, Cheruthu NM, Takahashi K, Tanaka S, Nakamura T, Tamaoki N: Photoswitchable agonists for visible-light activation of the Wnt signaling pathway. *Org Biomol Chem*. 2025 Apr 30;23(17):4240-4245.
- 22) Konishi T, Funayama N, Sunaga D, Ohori K, Yamamoto T, Kashiwagi Y, Hotta D, Yamazaki K, Nishihara H, Tanaka S: Pathological Characteristics of Aspirated Thrombi From Coronary Artery Embolism in Patients With Acute Myocardial Infarction *Cureus* 17(11): e96443.
- 23) †Tsujino S, †Tsuda M, †Deguchi S, †Ito J, Taha TY, Nasser H, Wang L, Rosecrans J, Suzuki R, Suzuki S, Yoshimatsu K, Ott M, Ikeda T, Sato K, Takayama K*, Tanaka S.*, Tamura T*, Fukuhara T*: A non-spike nucleocapsid R204P mutation in SARS-CoV-2 Omicron XEC enhances inflammation and pathogenicity. *Nat Commun*. 14 December 2025. [†, These authors contributed equally. * corresponding authors]
- 24) Sato I, Sasaki D, Abe J, Yamanouchi K, Takeda A, Yamada Y: Mitochondrial Coenzyme Q10 Delivery Improves Energy Production in Rat Cardiac Myoblasts and Duchenne Muscular Dystrophy Model Rat Cardiomyocytes. *Biol Pharm Bull*. 2025;48:1533-1539. doi:10.1248/bpb.b25-00327
- 25) Izumi G, Kobayashi N, Yamazawa H, Takeda A: Initial Holter Electrocardiogram Index to Predict the Burden of Subsequent Persistent Premature Ventricular Complex in Childhood. *Circ J*. 2025;89:234-239. doi:10.1253/circj.CJ-24-0438
- 26) Qaqorh T, Takahashi Y, ..., Takeda A, ..., Shintani Y: Atf3 controls transitioning in female mitochondrial cardiomyopathy as identified by spatial and single-cell transcriptomics. *Sci Adv*. 2025;11:eadq1575. doi:10.1126/sciadv.adq1575
- 27) Chida-Nagai A, Masaki N, Sato H, Kato T, Takakuwa E, Matsuno Y, Manabe A, Takeda A: Pulmonary artery-targeted low-dose metformin-loaded nanocapsules safely improve pulmonary arterial hypertension in rats. *Front Pharmacol*. 2025;16:1577570. doi:10.3389/fphar.2025.1577570

- 28) Sato T, Kihara Y, Ishiguro K, ..., Takeda A, Ishigaki K: Cross-Sectional Study of the Association Between Plasma Brain Natriuretic Peptide Levels and Left Ventricular Shortening Fraction in Fukuyama Congenital Muscular Dystrophy. *Tohoku J Exp Med.* 2025;266:81-85. doi:10.1620/tjem.2024.J137
- 29) Sato I, Sasaki D, Abe J, Yamanouchi K, Takeda A, Yamada Y: Improvement of mitochondrial function in Duchenne muscular dystrophy skeletal muscle cells by coenzyme Q10 delivery to mitochondria. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025;771:152003. 2025.152003
- 30) Kawakita I, Honda S, Yamada Y, Tanaka S, Katayama Y, Shionoiri T, Ishii A, Kurosu H, Hamada K, Kumagai K, Nakazono K, Saito R, Terasaka C, Takahashi R, Kawahara I, Ara M, Iwasaki S, Tanaka S, Niida A, Hiyama E, Taketomi A, Taniguchi K: PAGE4, upregulated in a novel iPSC-derived hepatoblastoma model, promotes hepatoblastoma progression. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025 Nov 19;790:152824. Epub 2025 Oct 16.
- 31) Hatanaka K, Iwasaki S, Tanaka S, Tanabe T, Sasaki H, Harada H, Miura M, Nakazawa D, Ishii Y, Yamaguchi T, Katayama Y, Aoyama S, Tanaka S, Taniguchi K, Tsuji T: Transcriptomic Insights into Polyomavirus Nephropathy in Kidney Transplants: Evaluating the Utility of the Banff Human Organ Transplant Panel. *Nephron.* 2025;149(Suppl. 1):60-69. Epub 2025
- 32) Kurosu H, Asano H, Salah-Eldin AE, Hamada K, Tanaka S, Ishii A, Kawakita I, Kumagai K, Nakazono K, Katayama Y, Saito R, Terasaka C, Iwasaki S, Tanaka S, Niida A, Watari H, Taniguchi K: LICAM Promotes Human Endometrial Cancer Via NF- κ B Activation. *Cancers (Basel).* 2026 Jan 8;18(2):198

英文症例報告

- 1) Habiba U, Chowdhury AFMA, Ahmed R, Chowdhury SS, Ferdoush R, Ise K, Rashid HU, Rahman Z, Tanei ZI, Tanaka S, Zaman AU: Metastatic Renal Cell Carcinoma Presenting a Maxillary Mucosal Lesion as a First Visible Sign of Disease: A Case Report and Review of Literature. *Diagnostics (Basel).* 2025 Apr 7;15(7):938.

- 2) Miyachi S, Oshima Y, Yazaki K, Futaki N, Shirai Y, Tanei ZI, Ikebe Y, Iwata I, Ujiie H, Onozawa M, Hirano S, Tanaka S, Yabe I: An Autopsy Case of Amyotrophic Lateral Sclerosis With Sudden Death Showed Histological Features of Lewy Body Disease. *Neuropathology*. 2025 Aug;45(4):e70009. Wakita M, Yaguchi H, Otuski M, Tanikawa S, Miki Y, Aiba I, Yoshida M, Nomura T, Uwatoko H, Mito Y, Sinpo K, Ikeuchi T, Tanaka S., Wakabayashi K, Yabe I. Pathological study of progressive supranuclear palsy the cases with mutations in Bassoon. *Neuropathology*. 2025 Apr;45(2):140-152.
- 3) Fujii S, Takahashi-Iwata I, Oshima Y, Horiuchi K, Tanei Z, Satoh K, Kitamoto T, Tanaka S, Yabe I: Amyloid-beta pathology in a case with dementia with Lewy bodies with a rapidly progressive clinical course similar to Creutzfeldt-Jacob disease. *Neuropathology*. 2025 Jun;45(3):241-247.
- 4) Fujii S, Yaguchi H, Takahashi-Iwata I, Inoue T, Tarisawa M, Nomura T, Kudo A, Uwatoko H, Shirai S, Matsushima M, Miyaishi R, Otsuka N, Tanaka K, Taniguchi K, Takahashi M, Tanaka S, Yabe I: Anti-Tr/DNER Antibody-associated Paraneoplastic Neurological Syndrome Presenting Limbic Encephalitis with Anaplastic Large Cell Lymphoma. *Intern Med*. 2025 Jul 1;64(13):2057-2061.
- 5) Kimura T, Shimura T, Kato Y, Yanagawa-Matsuda A, Kawamura K, Tanei ZI, Tanaka S, Sakata KI: Adenomatoid Hyperplasia Requiring Differential Diagnosis From Malignant Neoplasms: A Report of Two Cases. *Cureus*. 2025 Aug 27;17(8):e91117.
- 6) Konishi T, Naito S, Kadosaka T, Nagai T, Tanaka S, Anzai T: Covert perforation caused by the edge of a drug-eluting coronary stent. *Cardiol J*. 2025;32(5):526-527.
- 7) Igarashi-Sugimoto A, Tsujino I, Shima H, Nakamura J, Nakaya T, Sato T, Watanabe T, Ohira H, Takamura K, Otsuka N, Ishizu A, Iwasaki S, Tanei Z, Tanino M, Taniguchi K, Tanaka S. Yokota I, Konno S: Pathological features of pulmonary vasculopathy in interstitial lung disease-associated pulmonary hypertension. *Respir Med*. 2025 Nov;248:108395.
- 8) Fujita Y, Chida-Nagai A, Shibukawa N, Tatsunori I, Suzuki Y, Sasaki D, Yamazawa H, Takeda A: Secondary Cardiomyopathy Due to Selenium Deficiency:

Multidimensional Cardiac Evaluation and Treatment. JACC Case Rep. 2025;30:104665.

- 9) Kaimori R, Sakai K, Takeda A, Hayata R, Yano S, Nishida H, Daa T, Mori S: Immunohistochemically-confirmed mitochondrial cardiomyopathy presenting as a conduction system hamartoma: A case report. Cardiovasc Pathol. 2025;79:107764.
- 10) Maruo Y, Abe J, Yamazawa H, Takeda A: Tailored optimal dosing of angiotensin-converting enzyme inhibitors and β -blockers in infantile dilated cardiomyopathy. Pediatr Int. 2025;67:e70266. doi:10.1111/ped.70266
- 11) Oki S, Yamaguchi S, Ishi Y, Motegi H, Gekka M, Tanei ZI, Kanno-Okada H, Takakuwa E, Tanaka S, Mori T, Nishioka K, Aoyama H, Tanaka S, Fujimura M: Recurrence patterns and clinical outcomes in adult cerebellar glioblastoma. Acta Neurochir (Wien). 2025 Aug 8;167(1):217.

英文その他

- 1) Imanishi K, Yasuo K, Shirai Y, Tanikawa S, Uchizawa M, Nishibata Y, Masuda S, Tanei ZI, Tanaka S, Ishizu A: Aneurysmal rupture in microscopic polyangiitis: a case-based review. Clin Rheumatol. 2025 Mar;44(3):1345-1354.
- 2) Oda Y, Seo Y, Masumoto Y, Mori T, Kuwabara T, Ise K, Shirai Y, Sugino H, Okada H, Tanei ZI, Wang L, Asayama B, Sato S, Kikuchi Y, Tsuda M, Oda Y, Tanaka S: Pitfall of the Diagnosis of Extramedullary Tumor: A Case of Intracranial Mesenchymal Tumor, FET::CREB Fusion-Positive Occurring in an Atypical Clinical Setting. Pathol Int. 2026 Jan;76(1):e70064.

和文原著論文

- 1) 佐々木理：予防のためのこどもの死亡検証（CDR）における地域と小児科医の役割. 北海道小児保健研究会会誌 令和7年10月

和文総説

- 1) 田中伸哉：医療安全に関連する死因調査の現状と課題. 病理解剖実践ガイドブック 2025 病理と臨床 臨時増刊号 43巻 299-303頁 2025年4月

- 2) 田中伸哉：北海道医学会の歴史—北海道医学雑誌 100 巻の発行にあたって—。北海道医誌 100 巻 2 号 59-61 頁 2025 年 5 月
- 3) 津田真寿美, 田中伸哉：HARP 現象が解き明かすがん幹細胞の創出機序とがん幹細胞ニッセ。実験医学【がん幹細胞とは何者なのか？がんの「幹細胞性」を再定義する】43, 1905-1910, 2025 年 7 月
- 4) 津田真寿美, 小田義崇, 田中伸哉：病理学基礎研究の最前線（第 6 回）ハイドロゲルを用いたがん幹細胞創出技術と性状解析。病理と臨床 43, 0193-0197, 2025 年 9 月

和文著書

- 5) 田中伸哉, 西原広史編：がんゲノム病理学 第 2 版 文光堂 2025 年 4 月
- 6) 田中伸哉, 西原広史編：がんゲノム病理診断学 文光堂 2025 年 11 月

国際学会発表

(一般演題)

- 1) Shirai Y, Tsuda M, Wang L, Oda Y, Tanei Z, Tanaka S: Effects of interactions between glioblastoma cells and astrocytes on hydrogel-enhanced stemness induction. 13th AACR-JCA Joint Conference, 2025.2.1-5, Hyatt Regency Maui (Hawaii, USA)
- 2) Terashima Y, Park S, Ikeuchi H, Hayashi T, Kojima S, Ueno T, Ikegami M, Kitada R, Suehara Y, Tanaka S, Suzuki K, Mano H, Takamochi K, Kohsaka S: Comprehensive RNA profiling identifies novel druggable fusion genes and four-gene signature for predicting prognosis in lung adenocarcinoma of never or light smokers. 13th AACR-JCA Joint Conference, 2025.2.1-5, Hyatt Regency Maui (Hawaii, USA)
- 3) He J, Tanei Z, Wu DS, Wang L, Oda Y, Tsuda M, Tanaka S: Distinct Characteristics of Brain Metastasis in Lung Adenocarcinoma: Development of High-Confidence Cell Lines. The 3rd International Online Conference on Cells, 2025.3.25-27 Online
- 4) Wang L, Tianyue Zhai, Tsuda M, Watari H, Tanaka S: Development of novel targeted therapy for ovarian cancer stem cells using hydrogel. 第 43 回 札幌国際がんシンポジウム 2025.7.5-6. グランドメルキュール札幌大通公園 (札幌市)

- 5) Nie Y, Tsuda M, Tanaka S: Cationic tumor microenvironment promotes stemness of glioblastoma via calcium ion-NFAT-c-Myc axis driven reprogramming. 第43回札幌国際がんシンポジウム, 2025.7.5-6 グランドメルキュール札幌大通公園 (札幌市)
- 6) Imajo M, Fu Q, Clement JE, Nonoyama T, Komatsuzaki T, Gong JP, Tanaka S: A synthetic hydrogel scaffold highlighting colorectal cancer plasticity driven by mechanotransduction pathways. 第43回札幌国際がんシンポジウム 2025.7.5-6. グランドメルキュール札幌大通公園 (札幌市)
- 7) Suzuki R, Tsujino S, Wang L, Masuta Y, Nogimori T, Oda Y, Tsuda M, Ito H, Suzuki S, Tamura T, Nao N, Matsuno K, Yamamoto T, Tanaka S, and Fukuhara T: Adaptation of SARS-CoV-2 to C57BL/6 mice and its application in breakthrough infection models. American Society for Virology 2025, 7.14-17, 2025, Palais des congrès de Montréal, (Montréal, Canada)
- 8) Omori Y, Ono Y, Itoh T, Takahashi K, Maguchi H, Ambo Y, Tanaka S, Furukawa T, Mizukami Y: Clonal Selection and Molecular Evolution of Multicentric High-Grade PanINs in a High-Risk Patient, UEGW 114th Annual Meeting 10.4 - 7, 2025, Messe Berlin, (Berlin, Germany)
- 9) Takeda A: Genetic background and recent proposed diagnostic criteria for mitochondrial cardiomyopathy. 58th AEPC, Hamburg, Germany, 2025 (Invited)

国際学会発表
(シンポジウム)

- 1) Tanaka S, Gong JP, Tsuda M (Invited lecture): HARP phenomenon: Creation of cancer stem cells by synthetic polymer hydrogels. 22nd International Conference of Flow Dynamics (ICFD), 11. 13-15, 2025. Sendai International Center, Sendai, Japan.

国内学会発表
(一般演題)

- 1) 伊勢昂生, 種井善一, 桑原傑, 遠田建, 白井裕介, HE JINTAO, 小田義崇, 王磊, 津田真寿美, 田中伸哉: 膠芽腫の単一細胞分子分類と腫瘍関連マクロファージとの局在に

- 関わる空間トランスクリプトーム解析. 第 114 回日本病理学会総会 2025. 4. 17-19 仙
台国際センター (仙台市)
- 2) 白井裕介, 津田真寿美, 王磊, 小田義崇, 種井善一, 田中伸哉: 腫瘍微小環境におけ
る膠芽腫幹細胞と星状膠細胞の相互作用の検討. 第 114 回日本病理学会総会
2025. 4. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
 - 3) 寺島祐樹, 種井善一, 伊勢昂生, 白井裕介, 鴨嶋雄大, 下田祐介, 岡本迪成, 中村俊
孝, 寺坂俊介, 田中伸哉: 硬膜の石灰化/骨化の病理像. 第 114 回日本病理学会総会
2025. 4. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
 - 4) 小泉悠, 白井祐介, 西村真唯, 小田義崇, 種井善一, 王磊, 津田真寿美, 太田聡, 田
中伸哉: 高異軽度子宮内膜間質肉腫の 1 解剖例. 第 114 回日本病理学会総会
2025. 4. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
 - 5) 張一夫, 伊勢昂生, 白井慎一, 小田義崇, 種井善一, 王磊, 津田真寿美, 田中伸哉:
44 歳の脊髄小脳変性症 (マシャドジョセフ病) の一解剖例. 第 114 回日本病理学会総
会 2025. 4. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
 - 6) 岸浪建, 市原真, 小田義崇, 湯澤明夏, 加藤紘一, 小田寿, 田中伸哉, 谷野美智枝:
原発切除から 29 年後に残胃に発生した胎児消化管類似癌の一症例. 第 114 回日本病理
学会総会 2025. 4. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
 - 7) 津田真寿美, 高村敦子, 大西健太, 王磊, 小田義崇, 田中伸哉: 血管周囲ニッシェに
潜伏する膠芽腫幹細胞を標的とした治療戦略. 第 114 回日本病理学会総会 2025. 4. 17-
19 仙台国際センター (仙台市)
 - 8) 森口いるま, 伊勢昂生, 白神美織, 中村海人, 小田義崇, 種井善一, 王磊, 津田真寿
美, 太田聡, 田中伸哉: 低体温症から救命後, 急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) を発症し,
死亡した一解剖例. 第 114 回日本病理学会総会 2025. 04. 17-19 仙台国際センター (仙
台市)
 - 9) 新井美也子, 津田真寿美, 大西健太, 田中伸哉: グリオーマ幹細胞の生成における血
管内皮細胞の影響. 第 114 回日本病理学会総会 2025. 04. 17-19 仙台国際センター (仙
台市)

- 10) 小田義崇, 澤井彩織, 齋藤祐介, 王磊, 種井善一, 平林真介, 津田真寿美, 龔劍萍, 真部淳, 田中伸哉: 高機能ハイドロゲルを用いた白血病幹細胞の創出. 第 114 回日本病理学会総会 2025. 04. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
- 11) 遠田建, 小田義崇, 種井善一, 王磊, 津田真寿美, 田中伸哉: AI による悪性脳腫瘍分類: 基盤モデルの転移学習戦略比較. 第 114 回日本病理学会総会 2025. 4. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
- 12) He J, Tanei Z, Wang L, Oda Y, Tsuda M, Tanaka S: Multi-omics analysis reveals intratumor heterogeneity in brain metastatic lung adenocarcinoma. 第 114 回日本病理学会総会 2025. 4. 17-19 仙台国際センター (仙台市)
- 13) 濱中薫由樹, 柴田賢吾, 吉田雅, 市川伸樹, 大野陽介, 今泉健, 石塚千紘, 武富紹信, 種井善一, 田中伸哉: ロボット支援下結腸右半切除術を施行したクローンカイトカナダ症候群に合併した上行結腸癌の 1 例. 第 125 回日本外科学会, 仙台市, 2025 年
- 14) 堀大紀, 松島悟, 柳将人, 佐野弘純, 白井裕介, 小田義崇, 種井善一, 田中伸哉, 小林良二: 造血幹細胞移植を 3 回施行するも制御困難であった monosomy 7 を有する骨髄増殖性疾患. 第 60 回日本血液学会春季北海道地方会 2026. 4. 26, 札幌北楡病院 (札幌市)
- 15) 桑原傑, 小田義崇, 藤原雄介, 伊勢昂生, 王磊, 種井善一, 津田真寿美, 田中伸哉: 側脳室に発生した脂肪化細胞を伴う中枢性神経細胞腫の一例. 第 43 回日本脳腫瘍病理学会学術集会 2025. 5. 30-31 山形テルサ (山形県)
- 16) 王磊, 津田真寿美, 田中伸哉: ハイドロゲルにより誘導した膀胱がん幹細胞の特性解析と治療標的分子の探索. 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2025. 07. 02-04 北海道大学学術交流会館 (札幌市)
- 17) 孫雁鵬, 津田真寿美, 王磊, 田中伸哉: がん幹細胞生成における腫瘍微小環境の硬さの検討. 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2025. 07. 02-04 北海道大学学術交流会館 (札幌市)
- 18) 杉野弘和, 田中伸哉: Low-grade diffusely infiltrative tumor, SMARCB1-mutant の分子基盤の解明. 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2025. 07. 02-04 北海道大学学術交流会館 (札幌市)

- 19) 王磊, 津田真寿美, 田中伸哉: ハイドロゲルを用いた卵巣癌幹細胞に対する新たな標的治療法の開発. 第 84 回日本癌学会学術総会, 2025. 9. 25-27, 石川県立音楽堂他 (金沢市)
- 20) 津田真寿美, 聶宇恒, 王磊, 高村敦子, 小田義崇, 種井善一, 中島佑, 龔劍萍, 田中伸哉: 血管周囲ニッシェにおけるカルシウムイオン-NFAT-c-Myc 誘導リプログラミングを介した膠芽腫幹細胞の創出. 第 84 回日本癌学会学術総会 2025. 9. 25-27. 石川県立音楽堂他 (金沢市)
- 21) 大塚慎也, 津田真寿美, 王磊, 小田義崇, 加藤道哉, 田中伸哉: 正電荷を有する荷電ゲルを用いた肺癌幹細胞の解析. 第 84 回日本癌学会学術総会 2025. 9. 25-27. 石川県立音楽堂他 (金沢市)
- 22) 津田真寿美, 聶宇恒, 王磊, 龔劍萍, 田中伸哉: 陽性荷電ハイドロゲルが模倣する細胞外環境はカルシウム-NFAT-cMyc 経路を介して膠芽腫幹細胞性を促進する. 第 131 回北海道癌談話会例会 2025. 10. 11 北海道大学医学部学友会館「フラテ」フラテホール (札幌市)
- 23) Gao C, Wang L, Gong JP, Tanaka S, Imajo M: PAK1-dependent regulation of CYP3A4 controls anti-cancer drug resistance in hepatocellular carcinoma cells. The 48th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan. 2025. 12. 03-05 (横浜市)
- 24) 高村敦子, 津田真寿美, 王磊, 小田義崇, 種井善一, 龔劍萍, 田中伸哉: 膠芽腫における COL6A2 発現グリオーマ幹細胞と微小血管増生との関連解析
第 48 回日本分子生物学会年会 2025. 12. 3. -5. パシフィコ横浜 (横浜市)
- 25) 宮本裕也, 津田真寿美, 王磊, 小田義崇, 種井善一, 龔劍萍, 田中伸哉: アダプター分子 Crk は神経芽腫におけるハイドロゲル誘導がん幹細胞性に必須である. 第 48 回日本分子生物学会年会 2025. 12. 3. -5. パシフィコ横浜 (横浜市)
- 26) Gao C, Wang L, Gong JP, Tanaka S, Imajo M: PAK1-dependent regulation of CYP3A4 controls anti-cancer drug resistance in hepatocellular carcinoma cells. 第 48 回日本分子生物学会年会 2025. 12. 3. -5. パシフィコ横浜 (横浜市)

- 27) 武田充人：長期の療養を必要とする児童生徒の健やかな育ちや将来のための自立支援について，北海道病弱虚弱教育研究会，札幌，2025
- 28) 武田充人：筋ジストロフィーの心筋症，筋ジストロフィー市民公開講座，札幌，2026
- 29) 武田充人：学童～移行期～成人期．北海道医療的ケア児等コーディネーター養成研修，札幌，2025
- 30) 武田充人：ライフステージから見た特定心筋症（二次性心筋症）—デュシェンヌ／ベッカー型筋ジストロフィー症合併心筋症の管理—．JSPCCS-JCC Joint Session 第61回日本小児循環器学会学術集会，三重，2025
- 31) 武田充人：ライフステージを貫く縦長心臓病学：各ステージごとの心不全とその評価を考える — ライフステージでみる小児二次性心筋症（潜在期から顕性心不全への進展と診断．第34回日本小児心筋疾患学会・第44回日本小児循環動態研究会 合同学術集会，松本市，2025
- 32) 武田充人：先天代謝異常症と心筋症．第21回日本先天代謝異常学会セミナー，東京，2025
- 33) 田中 敏，岩崎沙理，谷口浩二：タイト結合膜蛋白 occludin は細胞内ドメインの Cys を介して細胞増殖性を調節する，第114回日本病理学会総会，仙台，2025
- 34) 田中 敏，岩崎沙理，谷口浩二：タイト結合膜蛋白 occludin の安定性はジスルフィド結合やユビキチン化，HIF-1 α 安定性に制御され，細胞増殖性に関与する．第48回日本分子生物学会年会，横浜，2025
- (シンポジウム，特別講演，教育講演等)
- 1) 田中伸哉：HARP 現象の発見とハイドロゲルを用いた膠芽腫幹細胞の創出．曙橋神経懇話会 2025年1月21日 東京 (+WEB) ．
- 2) 田中伸哉：HARP 現象：ハイドロゲルで細胞のリプログラミングを誘導する．がん3D培養研究会，2025年2月28日，国立がん研究センター，東京
- 3) 大森優子，田中伸哉，古川徹：早期睪癌の分子進化モデル 第114回日本病理学会総会 2025.4.17-19 仙台国際センター（仙台市）

- 4) 大森優子, 田中伸哉, 古川徹: 膵癌の病理学的治療効果予測: Classical type と Basal-like type. 第 114 回日本病理学会総会 2025.4.17-19 仙台国際センター (仙台市)
- 5) 種井 善一, 小田 義崇, 王 磊, 津田 真寿美, 田中伸哉: 北大における病理解剖と神経病理研究. 第 114 回日本病理学会総会 2025.4.17-19. 仙台国際センター (仙台市)
- 6) 田中伸哉: 膠芽腫を病理組織とバイオマテリアルの融合研究を通じて探索する. 第 114 回日本病理学会総会 2025.4.17-19. 仙台国際センター (仙台市)
- 7) 小田義崇, 津田真寿美, 王磊, 田中伸哉: 合成高分子ハイドロゲルを用いた白血病新規治療標的分子の探索. 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2025.07.02-04 北海道大学学術交流会館 (札幌市)
- 8) 今城 正道, 田中伸哉: 大腸癌における胎児様リプログラミングの分子機構と病理的意義の解析. 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2025.07.2-4. 北海道大学学術交流会館 (札幌市)
- 9) 田中伸哉: HARP 現象の発見とハイドロゲルを用いた膠芽腫幹細胞の創出. 第 25 回日本分子脳神経外科学会, 2025 年 7 月 24-26 日, 札幌
- 10) 田中伸哉: HARP 現象の発見とソフトマテリアル科学と医学生物学への応用. 北大ソフトマテリアル共創シンポジウム 2025 年 10 月 02 日 北大学術交流会館, 札幌
- 11) 武田充人: シンポジウム 1 「心筋症の Next Target: ミトコンドリア心筋症 — 実際の症例を交えて, 病理学的診断や酵素活性の解釈について」, 第 47 回心筋生検研究会, 札幌, 2025
- 12) 根岸淳: 歯科専門医共通研修 2 「歯科医療におけるインフォームド・コンセントとその課題」. 第 65 回日本歯科放射線学会, 北海道大学学術交流会館 (札幌市) 2025. 6. 1
- 13) 堀田記世彦, 根岸淳, 藤原晶, 岡本千秋, 太田絢, 植田孝介, 宮前祐士: 特別企画①A 「医療メディエーション概説と動画によるグループワーク」, 特別企画①B 「ロールプレイで体験する医療メディエーション」, 特別企画② 「医療事故当事者へのケア: ピアサポートの考え方」. 第 13 回北海道医療安全研究会講演会ファシリテーター, 北海道自治労会館 5 階大ホール (札幌市), 2025. 7. 12

- 14) 佐々木理：死因究明から CDR へ。第 30 回日本小児突然死予防医学会学術集会，東京都，2025.2.8
- 15) 佐々木理：わが国の Child Death Review ～小児科医の関わりと CDR 委員会の取り組み～。第 128 回日本小児科学会学術集会，愛知県名古屋市，2025.4.19
- 16) 佐々木理：予防のためのこどもの死亡検証（CDR）における地域と小児科医の役割。北海道小児保健研究会学術集会，北海道札幌市，2025.5.24
- 17) 佐々木理：CDR 検証で求められるファシリテーション ～前向きな意見がでる雰囲気の良い会議とは～。子ども虐待防止学会第 31 回学術集会ほっかいどう大会，北海道札幌市，2025.11.16
- 18) 根岸淳：「令和 6 年度 歯科インシデントより」。医療安全に関する講演会，北海道大学医学部臨床大講堂，2025.3.7
- 19) 藤原晶：「チームで行う医療安全」。テルモ医療安全セミナー in 旭川。Web 開催，2025.3.13
- 20) 堀田記世彦：「2024 年のインシデントを振り返って」。医療安全管理部・感染制御部合同講演会，北海道大学医学部臨床大講堂（札幌市），2025.7.16
- 21) 堀田記世彦：「医師業務負担軽減に向けた電子カルテの運用に関する講演」。釧路労災病院講演会，釧路労災病院（釧路市），2025.9.10
- 22) 根岸淳：「歯科における医療安全管理 ―北大病院歯科医師 GRM11 年の経験から学んだこと―」。北海道歯科医師会医療安全セミナー，北海道歯科医師会，Web 開催，2025
- 23) 堀田記世彦：「なぜ医療安全報告書が命を救うのか～インシデント再発防止への道筋～」札幌医科大学附属病院 令和 7 年度第 2 回医療安全講演会，札幌医科大学附属病院医療事故防止対策委員会及び安全対策委員会，札幌医科大学附属病院（札幌市）/Web 開催，2025.12.12

24) 藤原晶：「心理的安全性」が医療の質を変える～医療現場における心理的安全性の重要性～. 名寄市立総合病院第2回医療安全研修会, 名寄市立総合病院（名寄市）, 2025. 12. 17

25) 田中敏：人体病理学(human pathology), 令和7年度大学院連合農学研究科(博士課程) 農学特別講義, 琉球大学 50周年記念館(沖縄県), 2025, 11, 12

外部獲得資金

1) 田中敏（代表）：文部科学省科学研究費 基盤研究（C）（25K10240）ジスルフィド結合を介したタイト結合の機能解明：酸化還元環境と細胞増殖の関連. 2025-2027

オートプシー・イメージング部門

実務実績（令和7年1月1日～令和7年12月31日）

オートプシー・イメージング(Ai)総数	26例
院内Ai総数	24例
うち、剖検例	19例
院外Ai読影	2例
CRPC(clinic-radiological-pathological conference)	8回
教育型CPC	3回

研究業績（2025.1-2025.12）

英文原著論文

- 1) Bito Y, Ochi H, Shirase R, Yokohama W, Harada K, Kudo K: Low b-value diffusion tensor imaging to analyze the dynamics of cerebrospinal fluid: resolving intravoxel pseudorandom motion into ordered and disordered motions. Magn Reson Med Sci. 2025 Jan 1;24(1):46-57. Epub 2023 Oct 27.
- 2) Takenaka J, Watanabe S, Abe T, Takeuchi S, Hirata K, Kimura R, Ishii H, Wakabayashi N, Majigsuren M, Kudo K: Urinary dopamine levels can predict the avidity of post-therapy [131I] MIBG scintigraphy in unresectable or metastatic pheochromocytomas and paragangliomas: a preliminary clinical study. Pharmaceuticals (Basel). 2025 Jan 26;18(2):165.
- 3) Morita R, Kurashima Y, Soyama T, Abo D, Fujima N, Kameda T, Takahashi B, Kinota N, Kato D, Fujii T, Hamaguchi H, Kudo K: Effect of a training system utilizing 3D-printed patient-specific vascular models on endovascular catheterization performance. J Vasc Interv Radiol. 2025 May;36(5):901-907. e2. Epub 2025 Jan 21.
- 4) Han F, Tang M, Zhang Z, Hirata K, Okugawa Y, Matsuda Y, Nakaya J, Ogasawara K, Kudo K: Prediction of post-bath body temperature using fuzzy inference systems with hydrotherapy. Healthcare (Basel). 2025 Apr 23;13(9):972.

- 5) Morita R, Kurashima Y, Soyama T, Abo D, Fujima N, Kameda T, Takahashi B, Kinota N, Kato D, Fujii T, Hamaguchi H, Kudo K: Effect of a training system utilizing 3D-printed patient-specific vascular models on endovascular performance rating scale advanced vascular catheterization skills of experienced proceduralists. *J Vasc Interv Radiol*. 2025 May;36(5):901-907. e2. Epub 2025 Jan 21.
- 6) Tsuneta S, Aono S, Kimura R, Kwon J, Fujima N, Ishizaka K, Nishioka N, Yoneyama M, Kato F, Minowa K, Kudo K: Impact of model-based deep-learning reconstruction compared with compressed sensing-sensitivity encoding on cine cardiac MRI image quality and precision of left-ventricular volume and strain evaluation: a healthy volunteer study. *Magn Reson Med Sci*. 2025 May 30. Online ahead of print.
- 7) Takenaka J, Watanabe S, Abe T, Takeuchi S, Hirata K, Kimura R, Ishii H, Wakabayashi N, Majigsuren M, Kudo K: The biochemical-imaging connection: urinary noradrenaline and FDG-PET in unresectable or metastatic pheochromocytomas and paragangliomas. *Diagnostics (Basel)*. 2025 May 22;15(11):1305.
- 8) Fujima N, Shimizu Y, Ikebe Y, Kameda H, Harada T, Tsushima N, Kano S, Homma A, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: Dual-type deep learning-based image reconstruction for advanced denoising and super-resolution processing in head and neck T2-weighted imaging. *Jpn J Radiol*. 2025 Jul;43(7):1097-1105. Epub 2025 Mar 5.
- 9) Wakabayashi N, Watanabe S, Takeuchi S, Tsuchikawa T, Munakata Y, Hirata K, Kimura R, Takenaka J, Ishii H, Kudo K: Factors and predictors affecting late external dose rates and isolation period in patients after lutetium-177-labeled DOTA-Tyr3-octreotate treatment for neuroendocrine tumors. *Ann Nucl Med*. 2025 Jul;39(7):696-706. Epub 2025 Apr 5.
- 10) Nishioka N, Fujima N, Tsuneta S, Kato D, Kamiishi T, Yoshikawa M, Kimura R, Sakamoto K, Matsumoto R, Abe T, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: Comparative evaluation of four reconstruction techniques for prostate T2-weighted MRI:

- sensitivity encoding, compressed sensing, deep learning, and super-resolution. *Eur J Radiol Open*. 2025 Jul 22;15:100671. eCollection 2025 Dec.
- 11) Takano Y, Fujima N, Nakagawa J, Dobashi H, Shimizu Y, Kanaya M, Kano S, Homma A, Kudo K: Diagnosis of thyroid cartilage invasion by laryngeal and hypopharyngeal cancers based on CT with deep learning. *Eur J Radiol*. 2025 Aug;189:112168. Epub 2025 May 13.
 - 12) Kato D, Abo D, Morita R, Katoh N, Miyamoto N, Yamada R, Kinota N, Fujii T, Yamasaki K, Kanaya M, Aoyama H, Kudo K: Fiducial marker placement for gated radiotherapy using real-time tumor tracking in pancreatic cancer: a comparative analysis of transarterial and percutaneous approaches. *J Vasc Interv Radiol*. 2025 Aug 22;S1051-0443(25)00538-X. Online ahead of print.
 - 13) Yamasaki K, Kondo H, Yamamoto M, Watanabe K, Kitagawa K, Hirano T, Kugimiya A, Wada T, Kudo K, Oba H: Mechanical thrombectomy using a balloon guide catheter for acute occlusion of the superior mesenteric artery. *J Vasc Interv Radiol*. 2025 Aug 22;S1051-0443(25)00540-8. Online ahead of print.
 - 14) Ikebe Y, Fujima N, Kameda H, Harada T, Shimizu Y, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: Ultra-fast whole-brain T2-weighted imaging in 7 seconds using dual-type deep learning reconstruction with single-shot acquisition: clinical feasibility and comparison with conventional methods. *Jpn J Radiol*. 2025 Sep 26. Online ahead of print.
 - 15) Kimura R, Hirata K, Tsuneta S, Takenaka J, Watanabe S, Abo D, Kudo K: Evaluation of artificial-intelligence-based liver segmentation and its application for longitudinal liver volume measurement. *Abdom Radiol (NY)*. 2025 Dec;50(12):6192-6200. Epub 2025 Jun 10.
 - 16) Aono S, Tsuneta S, Nishioka N, Aoike T, Hirayama H, Ishizaka K, Kwon J, Yoneyama M, Fujima N, Kudo K: Comparison of echo planar imaging and compressed sensing-sensitivity encoding in aortic 4D flow MRI for quantitative flow metrics: a healthy volunteers study. *Magn Reson Med Sci*. 2025 Apr 1;24(2):241-252. Epub 2024 Mar 29.

- 17) Kashiwa W, Hirata K, Endo H, Kudo K, Katoh C, Kawakami T, Kanno H, Takahashi K, Miyazaki T, Ikeda E, Oharaseki T, Ogawa Y, Onimaru M, Kurata M, Nakazawa D, Muso E, Nishibata Y, Masuda S, Tomaru U, Matsuno Y, Furuta S, Abe Y: Artificial intelligence challenge of discriminating cutaneous arteritis and polyarteritis nodosa based on hematoxylin-and-eosin images of skin biopsy specimens. *Pathol Res Pract*. 2025 May;269:155915. Epub 2025 Mar 15.
- 18) Anzai T, Hirata K, Kato K, Kudo K: Machine learning for cardio-oncology: predicting global longitudinal strain from conventional echocardiographic measurements in cancer patients. *Cardiooncology*. 2025 May 22;11(1):49.
- 19) Oe Y, Nakamura A, Cho KY, Takase T, Ogawa K, Ebihara Y, Yoshikawa M, Miya A, Nomoto H, Kameda H, Suda G, Kudo K, Sakamoto N, Hirano S, Atsumi T: Impact of preoperative NAFLD status on restoration of pancreatic β -cell function after laparoscopic sleeve gastrectomy. *Am J Physiol Endocrinol Metab*. 2025 Jun 1;328(6):E1013-E1020. Epub 2025 May 16.
- 20) Endo H, Hirata K, Magota K, Yoshimura T, Katoh C, Kudo K: Development and validation of 3D super-resolution convolutional neural network for 18F-FDG-PET images. *EJNMMI Phys*. 2025 Aug 19;12(1):77.
- 21) Miwa K, Tanaka K, Koga M, Tanaka K, Yakushiji Y, Sasaki M, Kudo K, Shiozawa M, Yoshimura S, Ihara M, Fujimoto S, Hoshino H, Kamiyama K, Kawano H, Nagasawa H, Nagakane Y, Nishiyama K, Yagita Y, Yoshimura S, Hirano T, Toyoda K: Prediction model to optimize long-term antithrombotic therapy using covert vascular brain injury and clinical features. *Stroke*. 2025 Sep;56(9):2605-2616. Epub 2025 Jun 19.
- 22) Hirano Y, Fujima N, Kameda H, Ishizaka K, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: High-resolution TOF-MRA using compressed sensing-based deep learning image reconstruction for the visualization of lenticulostriate arteries: a preliminary study. *Magn Reson Med Sci*. 2025 Sep 26;24(4):2024-0025. Epub 2024 Jul 20.
- 23) Ishida Y, Watanabe S, Sakakibara-Konishi J, Ikezawa Y, Kikuchi H, Kawai Y, Kimura H, Nakakubo S, Hirata K, Kudo K, Konno S: Association between FDG

accumulation in interstitial lesions and acute exacerbation risk in lung cancer: a multicenter analysis. *Jpn J Radiol.* 2025 Sep 12. Online ahead of print.

- 24) Hamaya T, Kamiya K, Nagai T, Tsuneta S, Oyama-Manabe N, Komoriyama H, Takahashi Y, Takahashi A, Mori Y, Mizuguchi Y, Takenaka S, Ishizaka S, Sato T, Temma T, Shingu Y, Kudo K, Wakasa S, Anzai T: Blood flow dynamics of self-expanding vs balloon-expandable transcatheter aortic valve replacement in patients with a small aortic annulus. *Can J Cardiol.* 2025 Dec;41(12):2364-2377. Epub 2025 Oct 9.
- 25) Oshino T, Shimizu H, Sato M, Nishida M, Horie T, Tsuneta S, Kato F, Hosoda M, Yokota I, Kudo K, Takahashi M: Impact of breast tumor size discrepancy between contrast-enhanced and conventional ultrasonography on axillary node metastasis: a retrospective cohort study. *BMC Cancer.* 2025 Nov 5;25(1):1718.
- 26) Nozawa S, Kuwatani M, Shimura R, Sugiura R, Kawakubo K, Nagai K, Kishi K, Yonemura H, Sakuhara Y, Kudo K, Sakamoto N: Efficacy of perfusion computed tomography in early prediction of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis. *Pancreas.* 2026 Jan 1;55(1):e33-e40.
- 27) Zhou S, Bito Y, Kameda H, Ikebe Y, Shimizu Y, Fujima N, Harada T, Kinota N, Kato D, Fujii T, Bai X, Moon B, Lee J, Kudo K: χ -separation insights into whole-brain characterization of age-related patterns of susceptibility in healthy aging.

英文症例報告

- 28) Morita R, Abo D, Fujii T, Kinota N, Kato D, Yamasaki K, Kanaya M, Harada T, Sugita O, Kawamura N, Taketomi A, Kudo K: Patient-Specific Vascular Models for Optimal Catheter Selection: Two Aneurysm Embolization Cases. *Radiol Case Rep.* 2025 Mar 18;20(6):2813-2819. doi:10.1016/j.radcr.2025.02.080. eCollection 2025 Jun. PMID:40176975
- 29) Hashimoto L, Watanabe S, Majigsuren M, Hirata K, Takenaka J, Kimura R, Ishii H, Kudo K: Brain metastasis from differentiated thyroid carcinoma responding

to radioiodine therapy. Asia Ocean J Nucl Med Biol. 2025;13(2):208-212.
doi:10.22038/aojnmb.2025.86276.1618. PMID:40585286

30) Takenaka J, Hirata K, Watanabe S, Ishi Y, Kudo K: Fluciclovine-PET Uptake in Microcystic Meningioma Mimicking High-grade Glioma: A Case Report. Clin Nucl Med. 2025 Oct 1;50(10):975-977. doi:10.1097/RLU.0000000000005924. Epub 2025 Apr 24. PMID:40279665

31) Koga H, Watanabe S, Hirata K, Ishi Y, Yamaguchi S, Kudo K: Unexpected [^{18}F] Fluciclovine Uptake in Pilocytic Astrocytoma: A Pediatric. Case Report. Clin Nucl Med. 2025 Nov 20. doi:10.1097/RLU.0000000000006233. Online ahead of print. PMID:41363945

国際学会発表

32) Kudo K: Basics and Applications of Quantitative Susceptibility Mapping (QSM) Mongolian Congress of Radiology, Ulaanbaatar, Mongolia, 2025.6.20

33) Bito Y, Kameda H, Fujima N, Kinota N, Kato D, Fujii T, Ochi H, Ishizaka K, Hirata K, Kudo K: Modeling Pseudorandom Flow in CSF Measured with Low b-value DTI (Low-b DTI). ISMRM Workshop on 40 Years of Diffusion, Kyoto, Japan, 2025.2.16-20

34) Takano Y, Fujima N, Nakagawa J, Dobashi H, Shimizu Y, Kanaya M, Kudo K: Diagnosis of thyroid cartilage invasion by laryngeal and hypopharyngeal cancers on CT with deep learning. European Congress of Radiology (ECR) 2025, Vienna, Austria, 2025.2.26-3.2

35) Majigsuren M, Fujima N, Ikebe Y, H Kameda H, Harada T, Shimizu Y, Bito Y, Kudo K: Deep Learning-Based Reconstruction of PROPELLER DWI at 3T in the Sellar and Cerebellopontine Angle Regions.

講演会・セミナー等

1) 工藤與亮: ARIA 読影と AMED レジストリ研究について. 第 45 回神経放射線ワークショップ、熊本市、2025.7.3

- 2) 工藤與亮：ARIA の背景と目的. アルツハイマー病の抗 A β 抗体薬の投与に関する脳 MRI 診断講習会、山形市、2025. 7. 12
- 3) 工藤與亮：ARIA マネージメントの実際と注意点. レケンビ適正使用を考える会 in 岩手、盛岡市、2025. 7. 16
- 4) 工藤與亮：画像診断における AI 活用と人材育成. 第 11 回 Bench to Bedside Cardiovascular Research Meeting、Web、2025. 7. 30
- 5) 工藤與亮：ARIA の背景と目的. アルツハイマー病の抗 A β 抗体薬の投与に関する脳 MRI 診断講習会、姫路市、2025. 8. 31
- 6) 工藤與亮：医療 AI で未来の医療を作る. 札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会合同講演会、札幌市、2025. 9. 2
- 7) 工藤與亮：レケンビの安全性情報を臨床試験と実臨床研究から振り返る～放射線科医の立場から～. LEQEMBI Web Seminar、Web、2025. 9. 4
- 8) 工藤與亮：医療における AI と半導体の話題- 画像診断を中心に -. バイエル画像診断 WEB カンファレンス in Kyushu、福岡市、2025. 11. 18
- 9) 工藤與亮：北海道大学における医療 AI 研究開発から半導体開発に向けて. d.lab 協賛事業 2025 年度第 7 回イベント 北海道ツアー講演会、札幌市、2025. 11. 26
- 10) 工藤與亮：ARIA の背景と目的. アルツハイマー病の抗 A β 抗体薬の投与に関する脳 MRI 診断講習会、倉敷市、2025. 12. 12
- 11) 工藤與亮：半導体の進化と先端医療- 画像診断における AI 活用と展望 -. SEMICON JAPAN、幕張、2025. 12. 18
- 12) 工藤與亮：PCNSL の MRI 診断の勘どころ. Hematologic Malignancy Expert Seminar、Web、2026. 2. 6
- 13) 工藤與亮：神経画像診断における AI の開発と活用. 日本脳神経 CI 学会、東京、2026. 2. 12

- 14) 工藤與亮 : ARIA の背景と目的. アルツハイマー病の抗 A β 抗体薬の投与に関する脳 MRI 診断講習会、佐賀市、2026. 2. 15
- 15) 工藤與亮 : 0-17 Labeled Water MRI. 第 5 回 Neurofluid-Imaging-Seminar、東京、2026. 2. 18
- 16) 工藤與亮 : ARIA の背景と目的. アルツハイマー病の抗 A β 抗体薬の投与に関する脳 MRI 診断講習会、名古屋市、2026. 2. 21
- 17) 工藤與亮 : 放射線科を支える“Care+I” Framework を考える. 第 9 回放射線科のミライを創る医療政策スクール、Web、2026. 2. 26
- 18) 工藤與亮 : PCNSL の MRI 診断の勘どころ. Hematology Update Seminar、Web、2026. 3. 10
- 19) 工藤與亮 : PCNSL の画像診断・鑑別診断・フォローアップのポイント. Primary CNS Lymphoma Seminar、Web、2026. 3. 17

法歯学部門

実務実績（令和6年1月1日～令和6年12月31日）

死後デンタルチャート作成：

死体検案；138件

法医解剖；43件

自衛隊歯科医官歯科身元確認訓練 4名

学外講義（医学科， 歯科衛生士科）4件

研究業績（2025.1～2025.12）

英文原著論文

- 1) Jin S, Takeuchi A, Murakami M. Cultivating research interest among undergraduate students: Becoming a career physician-scientist. J Pak Med Assoc. 2025 Jan;75(1):153-154.
- 2) Takeuchi A, Jin S, Kiuchi T, Murakami M. Are there common characteristics and adjustment processes among Gen Z? Malays J Med Sci. 2025 Feb;32(1):197-199.
- 3) Tsuneta S, Aono S, Kimura R, Kwon J, Fujima N, Ishizaka K, Nishioka N, Yoneyama M, Kato F, Minowa K, Kudo K. The impact of model-based deep-learning reconstruction compared with compressed sensing-sensitivity encoding on the image quality and precision of cine cardiac MR in evaluating left-ventricular volume and strain: A study on healthy volunteers. Magn Reson Med Sci. 2025. PMID: 40451846. doi:10.2463/mrms.mp.2024-0202.
- 4) Hagita T, Takeuchi A, Shimbashi S, Hyodoh H, Matoba K, Matoba T, Kiuchi T, Jin S. Usefulness of computed tomography-guided postmortem biopsy to evaluate pneumonia. Forensic Sci Int. 2025 Aug;377:112612.
- 5) Jin S, Takeuchi A, Murakami M. Enhancing financial literacy: Integrating education into the formal curriculum as a key solution. Florence Nightingale J Nurs. 2025 Oct;33(1). doi:10.5152/25034.
- 6) Takagi K, Nakamura K, Yoshimura Y, Yawaka Y. : Promoting dentin bridge formation through N-acetyl-L-cysteine application in rat molar pulpotomy: an experimental study. Journal of Functional Biomaterials, 16(4), 117, 2025. <https://doi.org/10.3390/jfb16040117>

- 7) Nishide S, Hongou H, Yoshihara T, Kanehira T, Yawaka Y. : Diurnal variation of salivary anaerobes correlates severe dental caries in children. Journal of Clinical Pediatric Dentistry, 49(1), 41-18, 2025.
- 8) Nishide S, Hongou H, Yoshihara T, Kanehira T, Yawaka Y.: Diurnal variation of salivary anaerobes correlates severe dental caries in children. JOC PD, 49(1):41-46, 2025. doi: 10.22514/jocpd.2024.097
- 9) Ishimaru Y, Yoshizawa T, Kimoto T, Inui T, Yawaka Y., Funahashi M: Neural responses prior to licking onset in the striatal matrix compartment in mice. Neuroscience 589:195-204, 2025.
- 10) Takagi K, Nakamura K, Yoshimura Y, Yawaka Y.: Promoting Dentin Bridge Formation Through N-Acetyl-L-Cysteine Application in Rat Molar Pulpotomy: An Experimental Study. J Funct Biomater, 16(4):117, 2025.

英文症例報告

- 1) Takasaki C, Yoshihara T, Matsuda A, Yawaka Y. : Repeated facial swelling caused by pericoronitis in a patient with megacystis microcolon intestinal hypoperistalsis syndrome: a case report. Journal of Clinical Pediatric Dentistry, 49(6), 225-230, 2025.
- 2) Sawaguchi M, Oshima S, Yawaka Y. : A difficult case of treatment for lower lip bite wound in Moebius syndrome: A case report. Pediatr Dent J, 35(2),100349, 2025.

英文著書

- 1) Yasutaka Yawaka : CQ7-CQ10 (Occlusal Guidance and Dental Arch Development Group). The Japanese Society for Disability and Oral Health (JSDH) Diagnosis and Treatment Guidelines for Down Syndrome in Dental Practice 2022. The Clinical Practice Guideline Committee of JSDH. The Japanese Society for Disability and Oral Health (JSDH)、Tokyo. pp.39-48, 2025.

和文原著論文

- 1) 八若保孝 : 障がい児・者の行動調整 (改訂版). 北海道歯科医師会誌, 80, 25-31, 2025.
- 2) 澤口 萌, 大島昇平, 吉原俊博, 八若保孝 : 歯科診療時における重症心身障害者の精神

的ストレスの評価方法の検討 ―心拍変動解析と皮膚電気活動を用いて―. 日重障誌, 50(1): 155-164, 2025.

和文症例報告

- 1) 高崎千尋, 八若保孝: 施設職員と連携して洗浄と抗菌薬服用で治癒にいたった知的能力障害者の上唇裂創の一例. 障歯誌 46(3):200-206, 2025.

和文著書

- 1) 日本医学放射線学会, 死後画像読影ガイドライン作成委員会編(分担執筆: 竹内明子), CQ13, CQ19, CQ22 コラム, CQ28, p46-48, 65-66, 78-79, 99-103, 死後画像読影ガイドライン 2025 年版, 金原出版 東京, 2025
- 2) 八若保孝: 1 行動調整法とは 7. 行動調整が必要な障害 G 行動療法. 障害者歯科診療における行動調整ガイドライン 2024. 日本障害者歯科学会 診療ガイドライン作成委員会: 編. 医歯薬出版, 東京. pp.14 - 17, 2025.
- 3) 八若保孝: 第 1 章 小児在宅医療の必要性 3-小児在宅医療実態 (これまでの診療実績)、求められていること, すべきこと, 4-ライフステージによる変化および配慮等. 日本障害者歯科学会 小児在宅歯科医療の手引き 第 2 版. 日本障害者歯科学会 診療ガイドライン作成委員会: 編. 医歯薬出版, 東京. pp.17 - 19, 2025.
- 4) 岩井七海, 竹内明子, 山野 茂, 志摩朋香, 箕輪和行: アルツハイマー病と歯周病, 月刊「細胞」, 57 巻. 第 14 号, p.1048-1051, ニュー・サイエンス社 東京, 2025

学会シンポジウムの主催

・第 65 回日本歯科放射線学会春季学術大会, 札幌市, 2025 年 6 月 1 日

- 1) NPO 法人 日本歯科放射線学会 第 65 回学術大会・第 21 回定例総会, 札幌市北区, 2025. 05. 30-06. 01
- 2) 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会 2025 年 10 月 11 日 (土) 北海道大学クラーク会館. 北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野小委・障害者歯科学教室 主管, 大会長として担当.

国際学会発表
(一般発表題)

- 1) Takeuchi A, Kiuchi T, Matoba T, Jin S, Matoba K. A case in which postmortem 3DCT fracture assessment was useful for fall location estimation. 14th Congress of the International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, May 14-17, 2025.

- 2) Jin S, Eguchi A, Takeuchi A, Matoba T, Kiuchi T, Matoba K. A case of a mummified corpse suspected of drug poisoning on postmortem imaging. 14th Congress of the International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, May 14-17, 2025.

- 3) Matoba K, Hara Y, Takeuchi A, Kiuchi T, Matoba T, Jin S. A case in which neck retroversion at postmortem CT imaging was useful in detecting cervical spine injury. 14th Congress of the International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, May 14-17, 2025.

- 4) Kiuchi T, Takeuchi A, Matoba T, Jin S, Matoba K. A case of identifying the site of fatal bleeding using contrast-enhanced CT during autopsy. 14th Congress of the International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, May 14-17, 2025.

- 5) Fujimoto H, Tanigawa M, Kawai J, Sakurai H, Takeuchi A. A method for personal identification using artificial intelligence (AI) based on pixel values of teeth in 2D images. 14th Congress of the International Society of Forensic Radiology and Imaging (ISFRI), Fukui, Japan, May 14-17, 2025.

国内学会発表
(特別講演・シンポジウム等)

- 1) 志摩 朋香 , 箕輪 和行: エナメル上皮腫診療ガイドラインの治療に関する CQ について。第 43 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 , 東京都千代田区 , 2025.02.26-02.28

- 2) 竹内明子, 北海道大学歯学研究院放射線学教室における臨床・研究,第2回若手歯科放射線科医の集い. 第65回日本歯科放射線学会春季学術大会, 札幌市, 2025年6月1日
- 3) 八若保孝:「北海道の障害児・者への歯科医療」, 第43回日本小児歯科学会北日本地方会大会基調講演. 北海道大学クラーク会館(札幌市). 2015年10月11日(土).

国内学会発表
(一般演題)

- 1) 藤本秀子, 谷川正臣, 竹内明子, 櫻井栄男, パノラマ画像の画素値を活用した個人識別の試み, 日本法医学画像勉強会, 神奈川県. 2025年3月1日
- 2) 竹内明子, 神 繁樹, 木内隆之, 的場光太郎, 死後 CT 画像の胸腺計測による小児虐待スクリーニングの有用性, 第109回 日本法医学会学術全国集会, 久留米市, 2025年6月11日~13日
- 3) 的場光太郎, 江口亜矢子, 神 繁樹, 竹内明子, 木内隆之, ハエの蛆を用いた薬物検査の有用性への検討, 第109回 日本法医学会学術全国集会, 久留米市, 2025年6月11日~13日
- 4) 神 繁樹, 的場光太郎, 木内隆之, 竹内明子, 青酸カリ摂取による2名の自殺事例におけるシアン化水素の測定, 第109回 日本法医学会学術全国集会, 久留米市, 2025年6月11日~13日
- 5) 木内隆之, 竹内明子, 神 繁樹, 的場光太郎, 法医診断におけるNT-proBMP検査の有用性についての検討(第2報), 第109回 日本法医学会学術全国集会, 久留米市, 2025年6月11日~13日
- 6) 岩井七海、竹内明子、亀田浩之、菅野優太、山野 茂、志摩朋香、箕輪和行, MRI 造影剤を用いた Porphyromonas gingivalis の標識方法の検討, 第240回関東地方会 第44回北日本地方会 第32回合同地方会, Web, 2025年8月30日
- 7) 菅野優太、山野 茂、志摩朋香、竹内明子、鈴鹿正顕、岩井七海、箕輪和行, Le Fort I型骨切り術後に生じた顎動脈分枝の仮性動脈瘤に対し、塞栓術が施行された1例, 第240回関東地方会 第44回北日本地方会 第32回合同地方会, Web, 2025年8月30日
- 8) 田村千景, 高橋 茂, 佐藤 匡, 八若保孝:液状食の継続摂取により発育阻害されたラッ

ト下顎頭に対する固形食への変更が 与える発育改善効果. 第 67 回歯科基礎医学会学会学術大会, グランキューブ大阪(大阪市), 2025 年 9 月 5~7日. (抄) 抄録集:151, 2025.

- 9) 藤本秀子, 竹内明子, 谷川正臣, 櫻井栄男, 歯の画素値を用いたAIによる個人識別法, 第 28 回法医画像勉強会, 松山市, 2025 年 9 月 27-28 日
- 10) 宮下優心, 細谷采花, 泉上博美, 神 繁樹, 竹内明子, 的場光太郎, 魚住諒, 法医解剖事例検体を用いた口腔内 P. gingivalis および A. actinomycetemcomitans の検出と動脈硬化の解析, 第 59 回日本臨床検査医学会北海道支部総会/第 35 回日本臨床化学 χ 北海道支部例会, 札幌市, 2025 年 9 月 27 日
- 11) 藤井 誠, 水野魁人, 高崎千尋, 豊田有希, 八若保孝: 下顎右側臼歯の深部埋伏を認めた2例. 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会, 北海道大学クラーク会館(札幌市), 2025 年 10 月 11 日. (抄)抄録集:22, 2025.
- 12) 水野魁人, 高崎千尋, 八若保孝: 下顎右側臼歯部に局限した歯根形成不全を認めた1例. 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会, 北海道大学クラーク会館(札幌市), 2025 年 10 月 11 日. (抄) 抄録集:30, 2025.
- 13) 重田 馨, 趙 継美, 大島昇平, 長 祐子, 八若保孝: 本学小児・障害者歯科外来における小児がん患者の口腔合併症についての調査. 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会, 北海道大学クラーク会館(札幌市), 2025 年 10 月 11 日. (抄) 抄録集:33, 2025.
- 14) 西浦まい, 青山佳仁, 須貝 壮, 野村奈央子, 中村光一, 八若保孝: 当科における5年間の有病児・障害児(者)の初診時実態調査. 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会, 北海道大学クラーク会館(札幌市), 2025 年 10 月 11 日. (抄) 抄録集:38, 2025.
- 15) 岩寺環司, 西見光彦, 前田彩子, 岩寺信喜, 八若保孝: 第三大臼歯の早期抜去により, 第二大臼歯の異所萌出が改善された2例. 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会, 北海道大学クラーク会館(札幌市), 2025 年 10 月 11 日. (抄) 抄録集:39, 2025.
- 16) 久田明奈, 種市梨紗, 星野 恵, 前田彩子, 飯田愛理, 北村結菜, 高崎千尋, 八若保孝: 小児歯科医院・一般歯科併設型小児歯科部門の新規来院患者の実態と比較. 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会, 北海道大学クラーク会館(札幌市), 2025 年 10 月 11 日. (抄) 抄録集:41, 2025.

- 17) 高井理人, 澤口 萌, 大島昇平, 八若保孝: 医療的ケアを必要とする重症心身障害児における歯の交換期に関する調査研究. 第 42 回日本障害者歯科学会総会および学術大会, グランキューブ大阪(大阪市), 2025 年 10 月 31 日, 11 月 1~2 日. (抄) 予稿集:P3-19, 2025.
- 18) 趙 継美, 重田 馨, 千田奈津子, 高崎千尋, 上原静香, 八若保孝: 口腔に特異的な所見を呈する Lowe 症候群に対して長期管理を行なった3例. 第 42 回日本障害者歯科学会総会および学術大会, グランキューブ大阪(大阪市), 2025 年 10 月 31 日, 11 月 1~2 日. (抄) 予稿集:P9-44, 2025.
- 19) 藤本秀子, 木村かおり, 竹内明子: Dawa Zangpo, AI を活用した歯と歯槽骨による個人識別法, 日本法医学会 第 42 回学術中・四国地方集会, 高松市, 2025 年 10 月 11 日

その他の講演・セミナー

- 1) 八若保孝: 「施設基準研修会」, 令和 6 年度施設基準研修会. 北海道歯科医師会館 (札幌市). 2025 年 1 月 18 日 (土)
- 2) 竹内明子, 北海道大学死因究明教育研究センター法歯学部門の取組み～歯科所見採取の実際と画像照合～, 第 30 回北海道警察歯科協力医会研修会, 札幌市, 2025 年 3 月 1 日
- 3) 箕輪和行: 教育講演「歯科放射線学概論、CT/MRI」 / 北海道形成歯科研究会 / 日本口腔インプラント学会認定講習会 / 札幌 / 2025 年 04 月 06 日.
- 4) 八若保孝: 「障がい児・者への歯科対応 ～各障害に対する留意点～」, 令和 7 年度第 2 回障がい者歯科医療普及講演会. 愛知県歯科医師会館 (名古屋市) +Web 配信. 2025 年 8 月 3 日 (日).
- 5) 八若保孝: 「障がい児・者への歯科的対応の要点」, 第 4 回障がい者歯科認定協力医研修会. 愛知県歯科医師会館 (名古屋市). 2025 年 8 月 3 日 (日).
- 6) 八若保孝: 「障がい者歯科の今、そして未来 (あす) へ」, 令和 7 年度北海道大学歯学部ホームカミングデイ講演. 北海道大学大学院歯学研究院講堂 (札幌市) +Web 配信. 2025 年 9 月 26 日 (土).
- 7) 八若保孝: 「北海道の障害児・者への歯科医療」, 第 43 回日本小児歯科学会北日本地方会大会基調講演. 北海道大学クラーク会館 (札幌市). 2015 年 10 月 11 日 (土).

- 8) 箕輪和行：教育講演「歯科臨床画像診断」，風の杜歯科，学術研修，札幌市，2025年11月08日。
- 9) 八若保孝：「障がい児・者の歯科治療」，北海道障がい者歯科医療協力医制度講演．北海道歯科医師会館（札幌市）．2025年11月23日（日・祝）。
- 10) 八若保孝：「今の子どもたちに必要なことー歯科の立場からー」，子どもの歯と口の講演会．釧路市生涯学習センター（釧路市）．2025年11月29日（土）。
- 11) 箕輪和行：教育講演「歯科放射線学」，日本大学松戸歯学部，松戸市，2025年12月05日

外部資金獲得

- 1) 竹内明子(分担)：深層学習による歯槽骨画像上特徴点検出を用いた歯周病画像検査法の開発，科研費 基盤研究 (C) ，23K09501，2023-2026
- 2) 竹内明子(代表)，箕輪和行(分担)：歯科的身元確認を支援する包括的歯科材料データベースの構築- 災害時応用を目指して，科研費 基盤研究 (C) ，24K13384，2024-2026
- 3) 八若保孝 (代表) ， 中村光一：科学研究費基金 基盤研究 (C) ，課題番号：24K13167) 「複雑な乳歯根管系の制御ー歯根外部吸収部の再生ー」，2024-2026
- 4) 箕輪和行(代表)，亀田浩之，長谷部晃：successful aging-口腔内細菌攻略より．科研費 基盤研究 (C) ， 課題番号 25K13282，2025-2027

V. 參考資料

1. 当センターホームページに掲載した学外医療機関からの死亡時画像診断の読影業務に関する概要と Ai 読影申し込みフローチャート

概 要

医学研究院死因究明教育研究センターにおける 学外からの死亡時画像診断(Ai)の読影の受託について

本センターは知見を広く共有し地域への貢献に資するため学外医療機関からの死亡時画像診断(Autopsy imaging、以下「Ai」)の読影業務の受託を2018年2月1日より行っています。

【受託の目的】

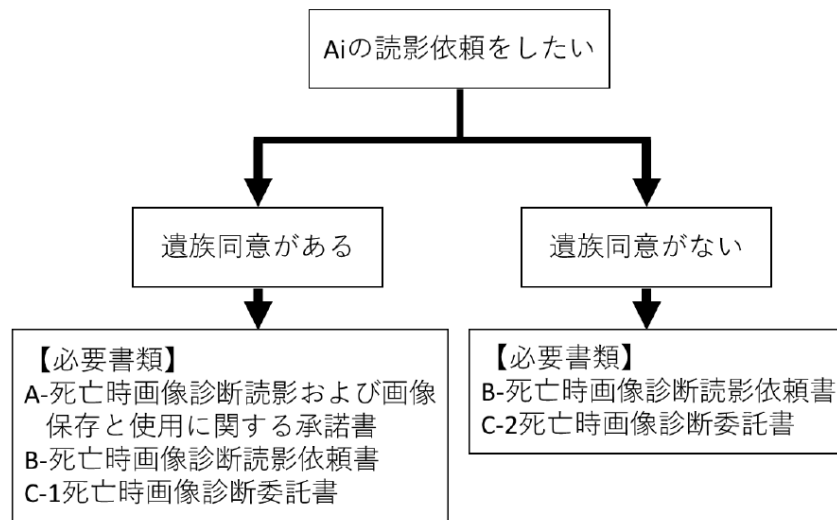
- 死後画像診断には死後変化と蘇生時変化など通常の画像診断とは異なる知識が必要です。センターで Ai の読影業務を受託することで、死後画像診断という学問の学部教育や大学院教育への充実化、人材育成を行います。
- 学外医療機関におかれましては、専門家のいる当センターに Ai の読影を委託することで、第三者の意見を聞くことができます。

【申し込み方法について】

- 受付時間: 電話:平日9:00~17:00 (メールは24時間受付)
- 申込方法: 下記の[メールアドレス](#)へ連絡を頂いた後、事務局からの指示に従って、下記の必要書類と診断料金を提出していただきます。
- 申 込 先: 画像診断学教室/死因究明研究教育センターAi部門
メール:shindan-jimu@med.hokudai.ac.jp
電 話 :011-706-7779
- 必要書類: • 死亡時画像診断 委託書/依頼書/承諾書
(必要書類は次項のフローチャート参照)
• 画像データ(DICOM規格)
- 診断料金: 1件につき 69,300円(税込)
- そ の 他: 読影の受託は医療機関のみから受け付けます。本センターで行うのは Ai の読影であり、Ai の撮影は各医療機関にてお願いいたします。レポートの返送まで2週間~1ヶ月程かかります。

Update 2020/3/XXX

【Ai 読影申し込みフローチャート】



【申込時の注意点】

- ✓ 遺族同意があるのかどうかを明示してください。
- ✓ 遺族同意がある場合と遺族同意がない場合に必要な書類が異なるため、ご確認の上必要書類の準備をお願いします。
- ✓ [B-死亡時画像診断読影依頼書]の医療事故に関連する項目には必ずチェックを入れてください。（*依頼の時点で医療事故かどうか調査中または不明の場合は、“関連あり”にチェックを入れ、変更が生じた際に事務局まで連絡をお願いします）
- ✓ 症例の経過がわかるように Ai 以外の過去画像も適宜データに含めてください。

Update 2020/3/XXX

